生涯学び続ける技術者たれ

学長
成田 健一

卒業おめでとう。卒業研究という集大成のハードルを見事に乗り越え、晴れて卒業の日を迎えた皆さんに、心からお祝いの言葉を贈ります。

皆さんが入学した2012年は、春に東京スカイツリーが開業、夏にはロンドンオリンピックが開催され、秋にはiPS細胞の山中氏がノーベル賞に輝きました。そんな明るい出来事の一方で、3・11東日本大震災の爪痕は深く、本格的な復旧はまだまだという年でした。皆さんの中には、そんな被災地の現実を目のあたりにして、自分も何らかの形で被災者の力になりたいと思った人も多かったのではないでしょうか。

そんな入学間もない頃の自分を、もう一度思い浮かべてみてください。そして、あの頃はできなかったけれど今はできるようになったこと、あの頃は知らなかったけれど今は他人（ひと）に説明できるようになったことを、一つひとつ数えてみてください。屹度、数え切れないくらいあるはずです。この4年間で、皆さんは様々な体験を通して専門力を十分に身につけてくれたと、私は信じています。

しかし、卒業は決して終了ではありません。新たな挑戦への始まりです。世界は今後、ますます複雑化・多様化します。そんな時代には教科書に既に書いてある答えは意味を持たなくなり、次々と生起する「答えの無い」課題に自らの力で立ち向かって行かなければなりません。これからは、四年間で身につけた知識や技術を組み合わせ、自ら納得する答えを導き出していくことが肝要です。そのためには、他人（ひと）の話を聞き、情報を集め、そして議論することで、異なる視点を発見しながら、自分なりの考えや意見を進化させていくことが何より大切です。

世の中には2種類の人間がいると、私は思っています。それは「一生学び続ける人」と、そうでない人です。「職業に貴賤はない」と昔から言われますが、「人の生き方」には明らかに貴賤があります。どうか皆さんは、生涯学び続ける技術者になって、すばらしい人生を切り拓いてください。

日本工業大学通信　第 200 号　2016 年 3 月 20 日発行